



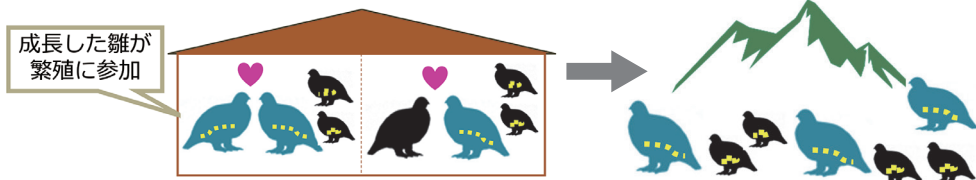
中央アルプスライチョウ復活作戦 ～復活作戦の試行錯誤～

2022年

動物園に移送した家族&その雛 計 22 羽を中央アルプスへ放鳥

動物園で繁殖させた
ライチョウの野生復帰を
初めて成功させた

成長した雛が
繁殖に参加



長野県におけるライチョウ保護の取り組み

◆北アルプス南部での生息状況調査

今年度、クラウドファンディングによる寄付金により、北アルプス南部の常念岳周辺でライチョウの生息状況を調査しました。

生息数調査：6月から9月にかけて、ナワバリ数やヒナの生存状況を確認。推定生息数は188羽（暫定値）となりました。過去の調査結果と比較すると、生息数の変動が見られますが、引き続き定期的な観測が必要です。

中型哺乳類の痕跡調査：114例の痕跡を確認。場所は燕岳、大天井岳、西岳、常念岳で多く、時期は6月に64例、7月と8月合わせて50例と偏っていました。現在、フンの内容物を分析中で、どのくらいライチョウが捕食されているのか等の情報が分かる可能性があります。



常念岳周辺での調査風景

◆中央アルプスでの取り組み

中央アルプスでは、サルの追い払いを実施しました。サルはライチョウの子育てや高山植物に影響を与えることが懸念されており、追い払いによりサルの出現は減少傾向にあります。平成30年に約50年ぶりにライチョウ1羽が発見された中央アルプスでは、環境省の保護対策や関係者の尽力により、ライチョウは令和6年9月時点で約120羽まで回復しました。

ライチョウ保護スクラムプロジェクト

これまでも多くの方々からの寄付により、高度技術者（ライチョウサポーターズエース）育成や情報アプリ「ライボス」開発、動画公開、清掃登山などの普及啓発活動も行ってきました。今後も県民や関係者だけでなく、全国の皆様と協力して保護対策に取り組んでいきます。

（坂口 龍之介／長野県環境部自然保護課）



常念岳で確認されたライチョウの親子（令和6年8月）